

# 令和5年度 一般社団法人 農村文明創生日本塾 地域塾 in 遠軽町 報告書



- 1 開催日 令和5年9月25日(月)15時~9月26日(火)10時30分
- 2 開催場所 北海道遠軽町
- 3 参加団体 北海道 遠軽町、北海道 二セコ町、群馬県 南牧村(村民17名含む)  
群馬県 川場村、愛媛県 鬼北町、富山県 南砺市

### 3 日程・概要

日程	時間	内容
令和5年 9月25日 (月曜日)	15:00	<p>●地域塾 開会</p> <p>@場所:遠軽町芸術文化交流プラザ(メトロプラザ) (住所:北海道紋別郡遠軽町岩見通南1丁目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠軽町芸術文化交流プラザ(メトロプラザ)の視察見学</li> <li>・農村文明創生日本塾 代表理事 南砺市長 挨拶</li> <li>・開催地 遠軽町長 挨拶</li> </ul>
	15:30	<p>●現地視察1日目</p> <p>～バス移動～</p> <p>(車内から、市内施設見学、瞰望岩見学)</p>
	16:30	<p>☆道の駅 遠軽 森のオホーツク視察</p> <p>(住所:北海道紋別郡遠軽町野上150番地1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道で初めてのスキー場併設型道の駅</li> <li>・遠軽ICとの隣接</li> <li>・多様なアクティビティ整備によりサマーシーズンにおける集客強化(ジップライン 森のOWL、サマーゲレンデ、ツリートレッキング等)</li> </ul>
	17:00	～バス移動～
	17:30	宿泊施設 チェックイン
	18:30	☆情報交換会
日程	時間	内容
令和5年 9月26日 (火曜日)	8:30	<p>●現地視察2日目</p> <p>～バス移動～</p> <p>☆情報交換・意見交換</p> <p>地域交通(2次交通、3次交通)、森林環境譲与税、ふるさと納税、</p>
	9:30	<p>☆白滝ジオパーク交流センター視察</p> <p>☆埋蔵文化財センター視察</p> <p>(住所:北海道紋別郡遠軽町白滝138番地1 遠軽町役場 白滝総合支所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年に「白滝ジオパーク」として日本ジオパークに認定</li> <li>・令和5年6月27日に日本最古の「国宝」に指定された『白滝遺跡群出土品』</li> </ul>
	10:30	<p>●地域塾 閉会</p> <p>解散</p>

～令和 5 年9月25日(月曜日)～

## ●一般社団法人 農村文明創生日本塾 「地域塾 in 遠軽町」 開会

今回は、全国6自治体(北海道 遠軽町、北海道 ニセコ町、群馬県 南牧村(村民17名含む) 群馬県 川場村、愛媛県 鬼北町、富山県 南砺市)から30名以上が集まり、北海道遠軽町にあつまり「地域塾」がスタートしました。

開会に先立ち、一般社団法人農村文明創生塾 田中 代表理事(富山県南砺市長)が、「地方の課題を共有して、問題意識を持ち、解決に向けて連携して、地方の声を国につなげていくことが、この会の目的であり、重要なことだ」と挨拶しました。

参加者代表として、開催地である佐々木北海道遠軽町長が、「遠軽町は、人口は少ないが、医療と教育、そして自衛隊の駐屯地のトライアングルで、日本の第一次産業を守り、国土、安全を守っている。この会の仲間とその思いは同じなので、さらにこの会を盛り上げていきたい」と熱い想いを述べられました。

その後、参加者の紹介があり、現地視察に向かいました。

会が始まる前には、佐々木遠軽町長自らが、教育の拠点となる遠軽町芸術文化交流プラザ(メトロプラザ)の施設を案内し、説明していました。



## ○一般社団法人農村文明創生塾 田中 代表理事(富山県南砺市長)

皆さんこんにちは。改めましてこの遠軽町でお会いできましたことを大変嬉しく思いますし、参加をいただきました皆さん、また、群馬県南牧村の皆さん、そして遠軽町の皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。



この農村文明創生日本塾は、美しい村というところから起点にして、それぞれの地域の同じような課題を持つ市町村が

### 田中 代表理事(富山県南砺市長)

今 30 自治体ぐらい参加をして、地域を見ながら地域で学び、そしてまた東京では、様々な省庁への要望も含めて活動をする、そういった2本立てだけの事業を進めております。

近年は、コロナ禍ということもあり、なかなかリアルに開催はできませんでしたが、やっぱり視察を含めて、地域を一つ見に行こうということで、今回は遠軽町に来ることができました。遠軽町長には本当にいろいろお世話になりまして、今日明日と地域塾を開催できるわけでありまして。本当に遠いところから、こうして集まって、その地域・現場を見て、色々な政策、もしくは色々な暮らしの課題を見つけていくことが我々の仕事であり、それを自分たちの地域にあてはめていき、同様の課題は解決するために連携をして、そして国にも働きかけていくということでございます。ぜひ皆様方にも、いろいろとまた見ていただきまして、教えていただければという風に思います。

私は富山県の南砺市というところからきました。世界遺産合掌造り集落が有名ですが、この数年インバウンド、特にアジアからのお客様が激減していた中で、ようやく最近、インバウンドが戻ってきました。しかし、増え始めましたら、今度はタクシーがないという問題が新たに出てきています。そうやって問題意識を持っている矢先に、先日、菅前総理がライドシェアという言葉が使われました。タクシーと協働しながら、一般車を使って、お客様を運んだり、住民の皆さんの足にしようということができないかと考えております。本当に地域の過疎地の課題、そして観光地の課題というのは、公共交通からだということを感じておりました。そうした中で、3 日ぐらい前に菅前総理にお会いして、今我々の現状をお話させていただく機会がありました。

このように、私達の地域の課題が、まさに日本の課題なんだと。私達の小さな地方が、課題を共有し、しっかり問題意識を持って、国を動かすぐらい力を持って我々市町村が連携していくということが大変重要なのであります。今回のこの会も、ぜひ皆様方にも、地方にこういう課題があるということとを共有し、解決に向けて地方が連携していくものになりたいと思いますのでどうぞよろしく願います。

## ○参加者代表（開催地町長） 佐々木北海道遠軽町長

皆さんこんにちは。ようこそ、遠軽町へ、お待ちしております。心から感謝を申し上げたいと思います。

この農村文明創生塾の中で、私のところが一番遠いところでしたので、いつか遠軽へ行くよって話をずっとおっしゃってくれておりました。念願が叶って本当に感無量でございます。私、この会議について、総務省OBで、地域活性化センターの理事長でありました椎川さんにお誘い頂きました。



北海道遠軽町 佐々木町長

ただ、最初は、正直いって、いろいろ拘束されるし、何か視察をするだけの会議なら嫌だなと思っていました。けれども、ところがどっこい、入ってみたら本当にどこに行っても目からウロコというか、勉強になることばかりでございます。

特に道の駅については、本日これからも視察に行っていただきますが、私町長になって4期目ですけども、遠軽に来たときは、高速道路とスキー場と道の駅をドッキングさせたものを、作ってやろうと思っていました。そういったときにこの会に入りますと、なんと、道の駅でとんでもないことをやっている川場村さんなんかにも視察に行きましたし、本当に各地いろいろ行って、遠軽のまちづくりに、相当参考にさせて頂いております。本当に私にとっては、入ってよかったと思える一番のグループかなというふうに思っております。

ここで、遠軽町の説明をさせていただきたいと思います。遠軽町は平成17年に合併をいたしました。オホーツク海にはここから車で30分も40分くらいで、サロマ湖があります。海の幸、海と山、森と清流の街でございます。面積は1332km<sup>2</sup>ということで町村では全国で4番目、北海道では2番目でございます。人口は合併したとき24,000人でしたが、それがどんどん予定通りに下がって今18,000人ちょっとです。

町の特徴としては、先ほど見てきましたがJRなどの交通の要所で発達してきた町でございます。

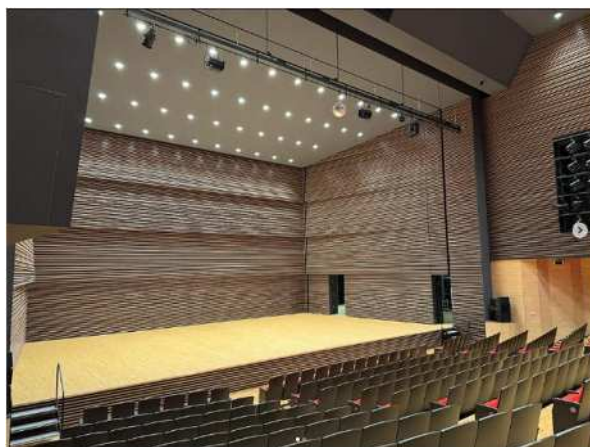
今は道路がだんだんその代わりを担っていることにはなりますが、ただ、札幌から旭川、遠軽、北見、網走をつなぐ横串のJRラインが必要であるため、今、沿線を挙げて活動しているところでございます。

それで、私は医療と教育で、この地方の1次産業を支えるということを政策の柱にしております。皆さん方のところは恐らく一次産業の方がたくさんおられると思いますが、遠軽町は実は1次産業従事者が8%もいません。だけど、この広大なオホーツクの1次産業というものが膨大であります。北海道は14のブロックに分かれておりますが、我々オホーツクはですね、農林水産業でいくと、農

業生産高はこの14ブロックの中で、十勝が1番でオホーツクが2番です。漁業はオホーツクが1番、そして森林、これもオホーツクが1番です。1次産業では、1番1番2番なのです。すなわち、日本の一次産業を引っ張っているのが我々であります。遠軽町は、一次産業の就業人口は少ないけども、医療と教育で、この日本のオホーツクの1次産業を支える役割を持っているという考えのもとでまち作りを進めています。

隣の湧別町も、北見市も屯田兵が開拓しました。今は屯田兵の時代ではないので、ある程度の病院・医療がなければ1次産業もできません。そこで、家族家庭を持って、子供ができる、そうなるという程度の高校が重要となります。大学まではこの町の規模ではいらないとは思っていますが、ただいろんな大学を狙えるような高校はやはり必要だろうと考えています。遠軽高校は北海道立高校である。それから、遠軽厚生病院も、うちの町の規模では大きな病院ではありますが、隣の紋別市と合わせても、例えば、産婦人科では一時は360人毎年生まれていたのが、今では遠軽町民が130人、紋別市民が110人くらいですが、この遠軽町で実践しています。ここも病院は厚生連、農協の団体がやっていて、ここには口も出すけどお金を出しながら様々な事業をやっております。

このホール（遠軽町芸術文化交流プラザ（メトロプラザ））もですね、吹奏楽にあった音響にしているのもそういうことなのです。遠軽高校の吹奏楽を大変評価しており、遠軽高校を維持するために、大変お金をかけています。高校は私がいたときは6クラス、多いときは7クラス、今は5クラスを維持するために頑張っています。通学区外から下宿生だけで100人以上来ています。これは北海道では断トツの多さです。野球部が70人以上の部員、吹奏楽も60~70人の部員で、全国大会出場が2年連続で決定しています。ラグビーも、今、北海道大会の決勝までいって、花園を目指しています。そういった御三家を中心に、生徒を集めています。



メトロプラザのホール



佐々木町長によるまちづくりの2本柱の一つ「教育」の重要性とメトロプラザの役割を説明

このように、医療と教育を柱にまちづくりをしています。そのベースにあるのが実は自衛隊の駐屯地がありまして、これがまたその医療と教育を支えています。旦那さんは自衛隊だけど、奥さんは病院で医者をしていたり、看護師さんもたくさんいます。高校生も自衛隊の子どもがたくさんいます。この医療と教育の2本柱に自衛隊を加えたトライアングルがベースで、まちづくりを進めており、そして1次産業を支えていく、これが私の町、遠軽町が日本に貢献できるまちになっていけないかと考えています。

ただ、やはり北海道というのは、人口が少なくなっているのに、JRも維持しなくてはいけない、駅と駅も遠い、道路の延長も長いです。だけど、広大な面積の北海道で人口が点在しているから、一次産業で日本を支えているのです。広大な面積で人口が少ないから、国防の面においても自衛隊の演習場が北海道に多数あります。南の方に最西端の与那国がありますが、万が一の場合に備えて、日々訓練をしています。自衛隊員はスポーツ選手と一緒にいるので、訓練できないと、常に訓練していないと、役に立ちません。そういう意味でやっぱり国の防衛安全保障の面、それから、1次産業を通じて、食料の面、これをやはりしっかりと我々の北海道は貢献しています。それなのに、人口が少ないところで、面積が大きいから道路ばかり作って無駄だろうということを中央の方に言われたこともあります。そこはですね、先ほど会長さんもおっしゃいました。我々一つ一つの小さい自治体が、日本の無駄になっているのではない、しっかりと我々が日本を支えているのだということを、皆さん方と共有して、同じ気持ちで進める仲間でありますので、やっぱり、この会をこれからもますますメンバーを増やして、やっていければという風に思います。今日と明日、ぜひこの遠軽を楽しんでいただければと思います。



## ●現地視察1日目

### ☆道の駅 遠軽 森のオホーツク視察

#### ◎◎道の駅 遠軽 森のオホーツク 概要 ◎◎

☆住所:北海道紋別郡遠軽町野上 150 番地 1

☆オープン:令和元年12月

☆面積:21,000㎡

☆施設:駐車場191台、電気自動車急速充電器1台、トイレ41器、特産品販売施設、フードコート、観光インフォメーション、休憩スペース、情報発信スペース、スキー場ロッジ、イベントスペース

☆特徴:

- ・北海道で初めてのスキー場併設型道の駅(冬場のロッジ機能との融合)
- ・高規格幹線道路の遠軽ICとの隣接
- ・オホーツク地域のゲートウェイとして地域の情報を発信
- ・多様なアクティビティ整備によりサマーシーズンにおける集客強化(ジップライン 森のOWL、サマーグレन्द、ツリートレッキング、ドッグラン等)
- ・各イベント開催の拠点



☆アクティビティ:

#### ・サマーグレन्द

長さ 300 メートル、幅 30 メートルのコース。敷かれているマットは「PIS LAB」ピスラボ。

#### ・ジップライン 森の OWL

えんがるロックバレースキー場の地形を生かしたダイナミックなジップラインコース。最大傾斜 25%。中継地点を挟んで全長 1,135 メートルを最速 70 km/h のスピードで駆け抜けます。



#### ・ツリートレッキング

木の上のワイヤーやはしごを渡って木から木への空中散歩が楽しめるアクティビティ。一般コースの全長は約 400m。29 のアトラクションを巡りながら、雄大な自然とスリルを満喫。キッズコースは約 50m。



#### ・体験プログラム

スノードームづくり、LEDソーラーランタンづくりなど、様々な体験ができる

#### ・その他、足湯、ドッグランなど

#### ・防災拠点としての位置づけ



令和元年にオープンした、『道の駅 遠軽 森のオホーツク』は、遠軽ICの隣接とスキー場との併設しているのが一番の特徴であり、アクセスの良さとスキー場のサマーシーズンの集客強化の方策がとても革新的であった。野菜、物産品、食の提供だけではなく、歴史や文化の発信拠点、さらには、防災拠点の位置づけされており、どの年齢層でも、ファミリーで楽しめる施設となっていました。



道の駅 外観

特に、「サマーゲレンデ」だけではなく、最大傾斜 25%。全長 1,135 メートルを最速 70 km/h のスピードで駆け抜けぬける「ジップライン 森の OWL」、木の上のワイヤーやはしごを渡って木から木への空中散歩が楽しめる「ツリートレッキング」、ドッグラン、足湯、様々な体験プログラムなどのアクティビティが大変充実していました。（ジップラインは、今回の地域塾の参加者で希望者が体験。とても満足だったとの声が多く聞かれた。）



サマーゲレンデの視察



トイレにも遊び心が



スキー場頂上からは、オホーツク海が見える。



ゲレンデ側からの道の駅



スキー場頂上にも仕掛けが

建物自体は、道の駅機能の1階とロッジ機能の2階がメイン階段と吹き抜けにより上下階での一体感が感じられる構造となっており、うまく2つの機能が融合しています。また、ロッジ機能の2階からはゲレンデを見渡せることができ、とても解放感を感じることができるとともに、建物全体的には、木材を多く使用しておりとても柔らかい印象を与えるものとなっています。



一年中楽しめるという道の駅と、ウィンタースポーツのロッジ機能が本当にうまく融合されている。スキー場のある市町村にとっては、どこのスキー場でも、サマーシーズンの集客が経営面での大きな課題となっているが、そのひとつの解決方法として大変参考になるものでした。

～令和 5 年 9 月 26 日 (火曜日)～

## ●現地視察2日目

### ☆白滝ジオパーク交流センター視察・☆埋蔵文化財センター視察

#### ◎◎白滝ジオパーク交流センター・埋蔵文化財センター概要 ◎◎

☆住所:北海道紋別郡遠軽町白滝 138-1

☆特徴:

・平成 22 年に「**白滝ジオパーク**」として日本ジオパークに認定された町

・かつては、水の中でマグマの噴火が起こり、固まった大地。そこで、多数の黒曜石が生まれた。

・遠軽町白滝地域に位置する「**日本最大の黒曜石産地**」をはじめ、アイヌ文化に彩られた名勝ピリカノカの 1

つ「**瞰望岩**」など、地球がなぜこのような地形になっているのか、大地の成り立ちを学べる。

→**黒曜石を生み出した火山活動と黒曜石を道具として用いた旧石器時代における人々の暮らし、歴史、自然などを学ぶ施設**(噴火が生み出した地形・・・天狗平展望地、大平(たいへい)高原(大平ジオパークロード)、インカルシ(瞰望岩)、赤石山)



・令和 5 年 6 月 27 日に日本最古の「**国宝**」に指定された『**白滝遺跡群出土品**』

→日本最大級の質・埋蔵量を誇る白滝黒曜石、旧石器時代の大遺跡群

・北海道にマンモスゾウがすんでいた 2 万年以上前の遺跡から、この黒曜石で作られた石器が大量に発見

・旧石器時代・・・氷河時代の北海道では、人々の食用となる植物がわずかであり、主な食料の調達方法は、動物の狩りだったと考えられ、群れて移動する「**遊動生活**」を送っていたと考えられている。



国宝に指定された『**白滝遺跡群出土品**』

特に、令和 5 年 6 月 27 日に日本最古の「**国宝**」に指定された『**白滝遺跡群出土品**』が展示されている埋蔵文化財センターは、旧石器時代の黒曜石を道具として用いて暮らした人々(**大地とひとのつながり**)について学び・体感が」できる。

・黒曜石を使って世界に1つだけの石器アクセサリをつくるワークショップも開催。

遠軽町役場白滝総合支所にある、白滝ジオパーク交流センターと、アイヌ文化に彩られた名勝ピリカノカの1つ「瞰望岩」、天狗平展望地など噴火が生み出した地形など、地球がなぜこのような大地になったのか、地球の・大地の成り立ちを学び、体験できる施設となっていました。10分ほどの映像は、大地の成り立ちが大変分かりやすく紹介されています。



### マグマの噴火によってできた大地について

特に、令和5年6月27日に日本最古の「国宝」に指定された『白滝遺跡群出土品』が展示されている埋蔵文化財センターは、旧石器時代の黒曜石を道具として用いて暮らした旧石器時代の人々が体感。斧型石器、彫器、尖頭器、砕石刃など、それぞれの時代にどのような道具を使って生活していたのがよくわかります。

「細石刃」・・・幅が1cm以下の小型の石刃。骨や角などで作られた「植刃器」と呼ばれる細長の軸にはめ込んで使用する組み合わせ道具

→世界から、採掘される黒曜石や石器の技術によって、人々がどのように移動したのか、また交易を行っていたのかが読み解ける



### 旧石器時代の人々の生活を学ぶ



### 各々の時代の黒曜石の石器

また、大きな黒曜石から石器を作るといらないカケラはそのまま捨てられる。現在の白滝遺跡群で発掘される黒曜石はその捨てられたカケラたちであり、それでは元々どのような石器だったかが分かりません。カケラ同士をジグソーパズルのようにくっつけてもとに戻したものを「接合資料」といいます。その作業の綿密で膨大な作業に、参加者一同はとても関心していました。



この2つ施設は、オホーツク地域の風土、郷土、歴史などを解き明かし、学び、体験できる施設であり、地元の方のふるさと教育だけではなく、風土や郷土の研究などの面からも、世界的にも、非常に重要な拠点となっていました。

さらには、国宝に指定された黒曜石は、観光・産業の面からも、重要な役割となっており、黒曜石を切り口として、地域活性化（現に、ごまソフトクリームやコロッケなども考案されている。）に寄与されるものだと感じました。



石器アクセサリーの体験も可能

## ☆情報交換・意見交換（バス車内）

移動中のバス車内も、今回の視察研修の重要な意見交換の場となりました。

各参加団体からは、『人口問題』、『地域の公共交通（2次交通からタクシーの運転手不足）』、『森林環境譲与税』、『ふるさと納税』、『地域の空き家と若者によるまちづくり』など、様々なテーマで、質問をし、状況報告などがなされ、活発に情報交換・意見交換が行われました。

『地域の公共交通』では、コロナ禍でタクシー運転手が減少したことにより、運転手不足の深刻な現状把握がなされ、タクシー協会と協働で配車アプリなどを活用し副業などで運転手の確保ができないか、意見交換。ニセコ町では、現に、実証的に進めており、その課題なども共有されました。

また、『森林環境譲与税』や『ふるさと納税』などでも、活用方法や、返礼品の問題、各地方都道府県の状況など、課題共有や各地方の対応策なども活発に意見交換がなされ、スタート地であるメトロプラザにバスが到着して、地域塾 in 遠軽町が閉会となりました。

## ●一般社団法人 農村文明創生日本塾 地域塾 in 遠軽町 閉会

### ○一般社団法人農村文明創生塾 田中 代表理事(富山県南砺市長)

皆様、2日間お疲れさまでした。昨日今日と遠軽町を回らせていただいて、遠軽町は、地域活性化のために一生懸命やっている住民のみなさんが、町長を信頼して、一体となって、しっかり進んでいるなど実感しました。とにかく町長の熱い思いと感じています。職員の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。

課題は、やはり人口問題、それぞれの地域の公共交通、森林環境税やふるさと納税もそうですが、今日見たようにいろんな課題は共有できると思っていますので、この農村文明創生日本塾でさらに何か一つ結果を出せるような動きをしていきたいと思っています。今後、オンラインの勉強会がいいのか、リアルの勉強会も含めて取り組んでいきたいと考えていますので、ぜひ皆様方に今後ともご参加をお願いします。

当会としては、来年までは、お金をかけるものではなく、今回のようにお金をかからずともできる方法を工夫しながら、実施していきながら、その後また勉強会なども、もう少し頑張っていきたいと思っています。また、この1年2年のうちに、より多くの方に賛同していただき、会員も増やしていきたいと思っています。

それとまた、私自身も今、“活力ある地方を創る首長の会“という会のなぜか会長代行をやっておりますが、220人ぐらいのメンバーがいます。オンライン上でずっと勉強会をやっていて、そこに菅元総理や大臣などが講演をやってくれています。このような会も含めて、地方のネットワークを強化して、地方の課題を国にしっかりつなげていくことが大事だと思っています。首長のみなさんにも、是非参加いただいて、一緒に、今のライドシェアの問題とかタクシーの問題も一緒に考えていきますので、そのことも含めてまたお知らせをさせていただきます。

本当に佐々木町長ありがとうございました。また参加いただきました皆さん、お世話に頂いた遠軽町のみなさん、本当にありがとうございました。

